時事新報

東京　明治十七年九月十六日　火曜日　第七百六十五號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○海軍省第百六十六號　海軍一般

今般太政官第二十一號ヲ以テ海軍志願兵徴募規則第十二條中傭正ノ職御仰進相成候ニ付テハ下士家族扶助金ノ義モ同様相心得ヘシ尤現今服役中ノ者其滿期迄ハ從前ノ通家族扶助金給與候條此旨達候事

但金額ハ改正ノ翌月ヲ以テ下附スヘシ

明治十七年九月十五日　海軍卿　川村純義

○大蔵省告示第百十二號

金禄公債證書ノ元金償還トシテ左ノ金額ヲ以テ來ル十一月中抽籤執行ス

但當籤證書ノ種類記號番號金高等確定ノ上ハ速ニ告示スヘシ

一金三百萬四千七百圓

該抽籤配賦計算ノ都合ニヨリ總籤數若干ノ内尾籤一本ハ金員不同ナリ若シ尾籤ニ當リタル節ハ本行金額聊増額アルヘシ

右告示候事

明治十七年九月十五日　大蔵卿　松方正義

叙任

○明治十七年八月三十日

叙從四位　從五位勳四等　籠手田安定

時事新報

滿清政府ヲ滅ボスモノハ西洋日新ノ文明ナラン

大清一統二百二十年其間ニ治乱ノ樣ハ一ナラズト雖モ愛親覺羅氏ノ名聲ハ四百餘州ニ赫々トシテ普天ノ下率土ノ濱ニレニ畏服セザルモノナシ前年長毛賊ノ乱ノ如キ一時或ハ北京ノ變事モ如何ト掛念スル程ノ次第ナリシカモ天命順ニ歸シテ再ビ青天白日ノ治ヲ見ルニ至リシモノモ決シテ偶然ニ非ズ蓋シ宗祖康熙乾隆二帝ノ如キハ唯清朝ノ名君ト稱ス可キノミニ非ズ支那歴代ノ帝王中比類ナキ空前絶後ノ英主ニシテ治術ニ富ミ允ニ文允ニ武ニシテ百世ノ業ヲ遺シ後世子孫頼ヲ以テ其遺業ヲ守リテ今日ノ隆盛ヲ致シタルモノナレバ政府ノ基礎固シト云フ可シ即チ東洋流ノ君主政体ニ於テハ他ノ模範トモ爲ル可キ治風ニシテ闇然ス可キモノアラザルナリ

然リト雖モ愛ニ眼ヲ轉シテ西洋文明ノ點ニリ觀察ヲ下タストキハ我國ハ滿清政府ノ健康ヲ見ザルノミナラズ其衰朽將ニ斃レントスルノ事實歴ニ明白ナルモノヽ如シ其治風都テ寛仁大度ヲ旨トシ仁ヲ以テ下ヲ御スルノ教ナレモ其仁德ノ恩澤ヲ被ル者ハ官吏ノ一類ニシテ下民ハ之ニ與カルヲ得ザルノミナラズ民ノ膏血ハ以テ官吏ヲ潤ホスノ資タルニ過キズ又其官吏中ニ於テモ下官ハ中官ニ奉シ中官ハ上官ニ奉スルノ慣行ニシテ大政府ノ公法ニ於テ吏人ノ俸給ヲ聞ケバ甚ダ薄俸ニシテ驚ク可キ高ナレモ退テ其私ニ就テ生計ノ有樣ヲ見レバ其豊ナルヿ又驚クニ堪ヘタリ在昔我德川政府ノ時代ニ市井掛リ小吏輩ガ一年僅ニ數十俵ノ給米ヲ收領シテ妻子ノ糊口ニサヘ窮ス可キ筈ナルニ其内實ハ金衣玉食シテ得々タリシモノヽ如シ諺言ニレテ役德ト云フ即チ官吏ニリ帰ニ徳風ノ事ニ付キ數次月次ニ聞ル所ノ者ハ、又ハ不時ノ公事詞訟ニ關シテ私托スルタノノ賄賂等ニシテ云ハバ小吏ガ法律ヲ賣却シテ私ニ其代價ヲ落手スルモノナリ德川政府ニテハ此惡弊流行トハ云ヒナガラ專ラ小吏中ニ行ハレタルヿナレモ支那ニ於テハ政府全體ニ風ヲ成シテ曾テ咎ル者モナク偶マ役德ヲ辭スル者アレバ却テ世ニ怪訝セラレ之ヲ廉吏ト稱シテ殆ト奇物ノ觀ヲ爲シ官途ニ齒セラルヽヿ難シト云フ例ヘバ兵隊ハ護國ノ本ニシテ之ヲ御スルノ法モ特別ニ軍律ナルモノヲ設ケ嚴重ノ上ニモ嚴重ニスルハ文明諸國ノ慣行ニシテ我日本ニ於テモ同樣軍律ノ嚴ナルハ人ノ知ル所ナラン軍中ニ私曲ノ事アラントハ我々ノ想像ニ及バザル所ナルニ支那軍ノ奇ナル、兵員ノ名稱ハ幾千幾萬ト稱シテ其實ハ半數ニモ足ラザル者アリト云フ其然ル所以ヲ尋ルニ例ヘバ三千ノ兵ヲ養フニ一人一月ノ費用六兩トシテ一萬八千兩ノ金ハ官ノ筋ヨリ之ヲ請取リ實際半數ハ空員ニシテ其人ナキガ故ニ軍費ノ半數九千兩ハ將校ノ私囊ニ入ヲ其役德ト爲ル即チ一千五百ノ兵ヲ懷中ニ私スルモノナリ軍人ニシテ尚且斯ノ如キ地方施政ノ弊ノ如キ推シテ知ル可シ租税徭役ノ法、名ハ一定ニ定マルト雖モ人民ニシテ之ヲ避クルノ法モ亦甚タ難カラズ例ヘバ厘金トシテ全國ノ商品ヲ運搬スルニ所在ノ關所ニテ原價百分ノ一ヲ収ムルノ法ナレモ其収税吏ナルモノハ特ニ責任ヲ帶ビタル大官ニ非ズ故ニ公然タル厘金ヲ算スレバ一百兩ヲ拂フ可キ處ニ半額五十兩ヲ吏人ノ袂ニ投シテ關門ヲバ無税ニ通過シ吏民ノ間ニ百兩ヲ半折シテ利スルノ策アリト云フ此種ノ事ヲ計レバ枚挙ニ遑アラズ結局支那國中ニテ國役ノ重キヲ負フ者ハ唯無智ノ小民アルノミト云テ事實ヲ誤ラザルヿナラン、大官ハ中官ヲ絞リ中官ハ小官ヲ絞リ上ヨリ下ニ至ルマデ幾段トナク絞リ又絞リテ其最下層ニ無數ノ小民アリテ全体ノ壓力ヲ受ケ偶マ廉吏ニ逢ヘバ不思議ノ僥倖、然ラザレバ其難難ヲ告ルニ道ナク世々曲ヲ蒙リナガラ殆ト習爲性ノ有樣ヲ以テ二百餘年ヲ持續シタルヿナリ

支那社會ノ内部、其醜斯ノ如クニシテ文明ノ眼ヲ以テ視レバ一日モ立國ノ体面ヲ保ツコトヲ不可思議ノ樣ナレモ實際ニ於テハ國ヲ立ルノミナラズ中央ノ政權四方ニ明ニシテ敢テ之ニ抗スル者ヲ見ズ之ヲ名ケテ帝德民ニ被ルト稱ス、事相ノ表裏天淵ノ差違ト云フ可シ蓋事ノ實際ニ於テハ萬民皆テ政府ノ德澤ヲ被ルニ非ス限ナキノ不平内ニ鬱積スト雖モ之ヲ外ニ散スルノ道ヲ得ズシテ却テ無事ノ偽相ヲ呈スルノミ且其不平タルヤ一樣ニ不平ナルニ非ズ局處ニ不平ノ部分アレバ其隣ハ則チ得意ノ部分ニシテ之ヲ平均スレバ不平ノ部分固ヨリ多シト雖モ恰モ間ニ介在スル得意ノ部分ニ遮フレテ此處ノ不平ト彼處ノ不平ト連絡スルヲ得ズ況ヤ北京ヲ去ルヿ千萬里外ノ群民如何ナル曲ヲ讃レバトテ之ヲ中央政府ニ告訴センナド、ハ思モ寄ラヌヿニシテ北京ノ遠キ天ノ如ク其高キ亦天ノ如シ之ヲ知ラズシテ唯其事實ニ長服スルノミ、無告ノ民ヲ憐ムハ君人ノ仁政ナリト云フト雖モ支那ノ社會ハ告訴ノ方便ナキガ故ニ國勢ヲシテ任政ノ名ヲ成サシメタルモノニシテ大清一統二百二十年ノ太平實交通不便ノ賜ナリト云フ可シ

然ルニ頃近支那國内ニモ西洋ノ文明ヲ入レ海陸ノ兵制等モ漸ク西洋流ノ端ヲ開キ就中昨年來佛國西トノ萬端ニ就テハ國内交通ノ不便ヲ感シテ俄ニ電信鐵道ノ利用ニ着眼シ電信ハ既ニ九省ニ亘リテ四十三局ヲ開キ鐵道モ近日天津通州間ニ敷設セントノ談アリ畢竟是皆ハ兵事ノ急ニ迫フレタル工業ナリト雖モ一度ヒ之ヲ利用スルトキハ支那人鈍ナリト雖モ其利味ヲ忘ル、能ハズシテ其電線ヲ延長シ其鐵道ヲ増敷シ又同樣ニ郵便ノ法ヲモ採用スルハ必然ノ勢ニシテ四百餘州交通ノ便ハ日ナラズシテ面目ヲ改ルヿナラン然リ而シテ此交通ノ便利獨リ政府ニ屬スレバ則チ可ナリト雖モ如何セン其利益ハ官民共有ノモノニシテ政府ノ專用ヲ許サズ、交通ノ利器既ニ人民ノ手ニ在リ其功用如何ナル可キヤ著書新聞紙ノ流行ハ今日ニ十倍シ書信電報都テ不平ヲ洩フスノ器タラザルモノナシ速刷ノ活字ハ不平ヲ印シ、御用ノ郵便局ハ不平ノ新聞紙ヲ配達シ、萬里ノ電線瞬刻ニ不平ヲ通シ、千里ノ鐵道一夜ニ不平ヲ載セテ行ク是ニ於テカ彼ノ不平ノ局處ニ孤立スルモノモ始テ連絡ヲ通シ彼ノ天外ナル北京政府ノ實況モ始メテ明白ト爲リ政府ノ威光モ聖人ノ仁德モ始メテ馬脚ヲ露ハシテ民心始メテ豁然タリ又茫然タル可シ之ヲ亂機ノ熟シタルモノト云フ故ニ我輩ノ見ル所ヲ以テスルニ今回佛清ノ事件ガ如何ニ局ヲ結ビ他諸外國ノ意見ガ如何ニ傾向シテ如何ナル成跡ヲ見ルモ治ニモ亂ニモ支那國ニ文明侵入ノ道ハ既ニ開テ復タ閉ヅ可ラズ滿清政府仮令ヒ西洋ノ兵力ニ敵スルヲ得ルモ文明ノ力ニ抗スルハ難シ故ニ云ク滿清政府ヲ滅ボスモノハ西洋日新ノ文明ナラント

電報

○九月十一日龍動發　ダッフェリン伯ハ印度太守ニ任セられたり○近頃特命全權として埃及に派遣せられたるノースブルー伯はウオルスレー將軍と共にカイロ府(埃及)に到着したり

佛清事件

○特派委員より電報　上海ある本社特派通信委員本多保四郎君より一昨十四日午後一時四十五分上海發の電報昨十五日午前七時三十分本社に達したり即ち左の如し

佛國政府ハ銳意進擊ニ決心セル由ノ風說盛ンナル際福州ヨリ達シタル確報ニ由レバ水師提督クルベー氏ハ本國政府ノ指揮ヲ得タレバ清國沿岸隨意ノ場所ニ向ヲ攻擊占據ノ自由ヲ得タリト云フ

右の報を據ればクルベー提督は此度本國政府より清國の沿海諸港何れの場所を問いず砲擊若くハ占據するの自由を得たりと見えるより若て我々が聞きたる處に據ればクルベー提督が最初福州を砲擊したるも本國政府の同意に出たる事なれば、無告の民を憐むハ君人の仁政ナリト云フト雖モ支那の

あるべき云へ

に必ず本國

戰を決じ

を下せも軍

隨意に砲擊

ー氏が十四

れ事あるに

向はざるに

も解しあり

未だ本國に

に至りあり

ー氏が此度

ゐして沿海

い讀者諸君

○宣戰の風聞　清國と戰

○福州近報　福州居留

の或新聞社

見るに曰く

支那兵徒

右支那兵

長崎の報

日上海發の

を劫掠した

より出でた

○電報の誤　電報として

日本の

北支那

らんと

り更ゐ左の

日本が

此一報に

蓋し此報

い種々

ゑ次第

のならん

○支那兵の

種々の

或ハ一千

今英佛

國軍艦